

沖繩作戰ニ於ケル

独混四四旅團第二歩兵隊第二大隊

四中隊

五中隊

六中隊

二機

戰鬥經過概要

昭和二十二年三月二十五日

第三軍殘務整理部

資料地区

沖繩作戰ニ於ケル
独混四四旅團第二歩兵隊第三大隊第四中隊
戰鬥經過、概要

昭和二十一年三月二十五日
第三軍旅務整理部

2943

部隊經歷 (第四中隊)

昭和十九年

六月廿九日

動員完結、富山丸遭難事件、分動員關係月日不詳
残存者約五百名、独混四旅團、第一步兵隊

八月十六日

自八月七日至本月十日召集、西部第十七部隊、
混四旅團、第二步兵隊、動員要員

八月十八日

西部第十七部隊出發
鹿兒島縣立第一中學校、於此待機

廿七日

大信丸、鹿兒島港出發

八月廿八日

二十時頃、大信丸火災、起

八月廿九日

大信丸火災、為大島多瀬沖、不時着

八月三十日

港上陸名瀬國民學校、宿營

九月一日

履門丸、名瀬港出帆

九月二日

沖繩縣國頭郡名護港、上陸名護國民學校、並

九月四日

第三中學校宿營

九月六日 独混四旅團第一歩兵隊並第二歩兵隊ヲ合隊シ

十一日 尚沖繩ニ於テ現地動員ヲ加ヘ独混四旅團第二歩兵隊動員編成完結

九月十二日 國頭郡初地村宿嶺國民學校ニ宿營

十七日 陣地構築

九月十八日 伊江島飛行場設定特援作業ニ従事

十月二日

十月三日 國頭郡初地村宿嶺國民學校ニ宿營

十月六日

十月七日 陣地構築
部隊(第四中隊)ハ左ノ通リ守備地区ニ轉進

中隊長並ニ中隊指揮班 名護地区

小隊長 幸七 分隊(第一小隊) 宜野座地区

分隊長 幸七 分隊(第二小隊) 幸喜地区

第三小隊及ニ第三小隊全員 名護地区

十月七日 上記地区ニ於テ第一小隊ハ宜野座並ニ幸喜地区國民學校ニ宿營第二小隊並ニ第三小隊ハ露營上陣地構築

十月十日

沖繩本島ハ全島ニ涉リ敵ノ空襲ヲ受ク

十一月一日 夜行軍ヲ中隊全部ハ本部地区へ移動

十一月二日

中隊長並ニ中隊指揮班

喜納原地区

第一小队

喜納原地区

第二小队

真部山地区

第三小队 (隊長共)

二七高地地区

第四小队 (隊長共)

喜納原地区

十一月二日

上記地区ニ於テ

各隊共露營、上守備陣

十一月三日

地構築

昭和三十年

十一月一日

前年引續キ各隊共露營、上守備陣

十一月三日

地構築

十一月三日

甲号戰鬥完令 早期ヨリ敵ノ上陸空襲アリ

十一月三日

戰鬥參加爲メ、上守備陣地ニ就キ待機

四月十六日

生ニ戰鬥參加

四月十七日

早期國頭地区ニ發進命令ヲ受テ各隊毎ニ轉進

四月十七日

早期出發轉進ニ速上遊擊戰ヲ行フ

四月二十日

國頭郡初地村夕ヨリ出テ於テ集結中

四月二十三日

四月二十三日

四月二十四日

四月二十五日

戦闘経過の大要

以上

敵艦ヲ受ケ戦斗ニ参加

國頭村地方へ、轉進命令ヲ受ケ、先彈藥倉庫

敵艦ノ爲メ集結轉進ハ不可能トナリ、解散状態ト志

中隊全員ハ夫々分隊單位ヲ國頭村附近ニ

露臺ニ遊撃ヲ行フ

(1) 昭和二十三年三月二十三日早朝ヨリ突如南方上空方面

ヨリ敵機ノ大編隊現出シ概シ七時頃ヨリ空襲爆撃ヲ

開始ス敵機ニ海岸地帯及海浜部落ニ指向セシ軍機

ニ甲号戰機下令中隊ハ即時戦斗配備ヲ完了セリ

(2) 三月二十四日早朝ヨリ敵機大編隊ノ空襲

ヲ受ケ中隊ハ陣地ヲ待機セリ

(3) 三月二十五日早朝ヨリ敵機大編隊ノ空襲

ヲ受ケ沖繩本島南部地区へ敵機艦砲射撃ヲ開始セリ

(4) 三月二十六日ヨリ四月六日早朝ハ前記同様早朝ヨリ敵機ノ空

襲ヲ受ケ名護港渡久地港崎本都海上ニ在敵機巡洋

艦砲射撃ヲ受ケ各隊ハ陣地ノ補強ヲ備

陣地前進陣地ノ構築ニ全力ヲ傾注セリ

(5) 四月七日 許田ニ敵ハ上陸ヲ開始シ名護港屋部其他國頭
地区數ヶ所ニ引續キ上陸ヲ開始セリ

國頭地区ニ上陸ノ敵ハ約一師團ト推定セラレタリ

(6) 上陸後之敵機ハ空襲ト艦砲射撃ハ激烈ヲ極メ中隊ハ
陣地ノ補強ニ努メ敵ノ攻勢ニ對シ萬全ヲ期シ行機情勢ヲ

四月十一日
四月十六日

(1) 四月十一日 早朝ヨリ敵機ノ猛烈ナル爆撃ト機銃掃射ヲ
受ケ十一時頃ヨリ三小隊ニテ分隊ノ守備陣地タルニ〇七高
地ハ敵上陸部隊ノ攻勢ヲ受ケ右ニテ分隊ハ中隊指揮

班ノ守備陣地タル喜納原附近ニ後退セリ
尚二小隊ノ守備陣地タル真部山地区ニモ敵上陸部隊ノ
攻勢ヲ受ケ交戦セリ夕刻ニ至リ敵ハ攻勢ヲ中止シ瑞

名ニ渡久地部落ニ集結セリ

(2) 四月十二日 前日同様早朝ヨリ猛烈ナル爆撃ト機銃掃
射ノ後十一時頃ヨリ第二小隊ノ守備陣地真部山前方ニ敵

上陸部隊現出シ小隊ハ友軍機銃隊ト連絡シ直ラニ
應戰シ敵ニ對シテモ相當ノ損害ヲ加ヘ敵ハ夕刻ニ至リ渡

久地ニ集結セリ
素死体三、背囊數十個ヲ遺棄後退シ瑞名渡久地
方面ニ集結セリ

一
四月十七日
四月二十日

(3) 四月十三日前日、全様爆撃ヲ機銃掃射ヲ受ケタル
敵上陸部隊ノ攻撃ナシ

(4) 四月十四日前日、全様猛烈ナル爆撃機銃掃射ノ後
中隊指揮班、第一小隊、第三小隊ノ守備陣地タル喜納原
方面ハ敵上陸部隊ノ攻撃ヲ受ケ、彼我共ニ損害アリ

(5) 四月十五日前日、全様爆撃ト機銃掃射ノ後喜納原
方面、陣地ハ敵上陸部隊ノ猛烈ナル攻撃ヲ受ケ、友軍ノ
戦死者も負傷者も相當アリ、生存者ハ第二小隊ノ
守備陣地、真部山地区ニ集結セリ

(6) 四月十六日前日、喜納原地区ノ陣地ヲ攻撃セル敵ノ上陸
部隊ハ、道路等ニ屬シ、早朝ヨリ攻撃ヲ開始シ、真部山地区
ニ轉進、攻撃ナシ

友軍ハ全カク舉ゲテ之ニ應戰シ、夜ニ至リテ敵ハ攻撃ヲ中止
セシメ艦砲射撃ハ愈々激烈ヲ極メ、彼我損害相當アリ

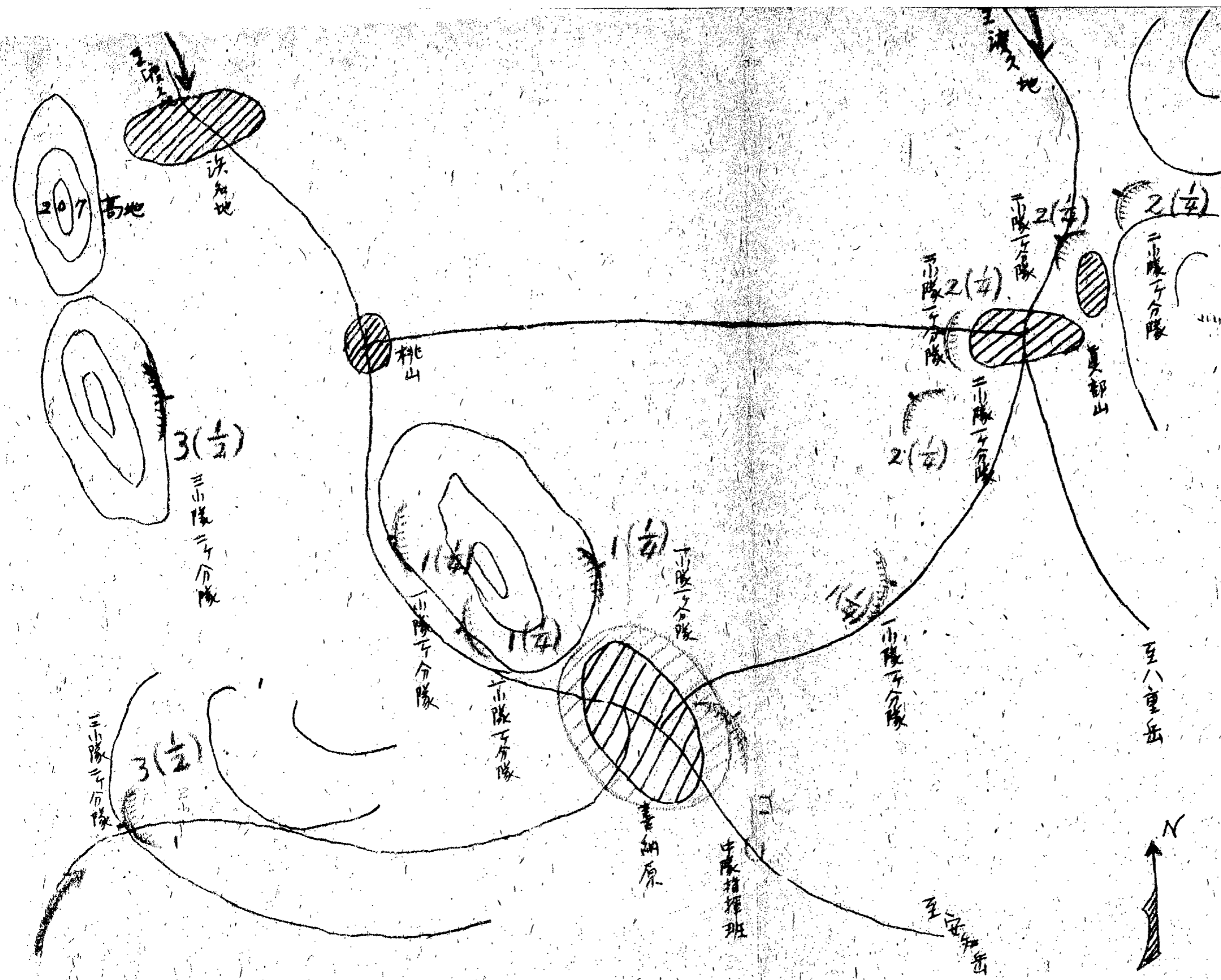
四月十七日一時頃、國頭郡初地村地方ハ、轉進命令ヲ受ケ艦
砲射撃激烈ニシ、夜中ヲ分隊單位ニ轉進ヲ開始シ

四月十八日ヨリ、速上遊撃戰ヲ行ヒ、四月二十日、初地村ヲ占ム
岳ニ各中隊ト合隊集結セリ

一 四月二十一日 初地ヲシヨウ岳ニ集結セシ友軍ハ敵上陸部隊ノ攻撃ヲ
 四月二十二日 受ケ之ニ應戦シ激戦奮闘ニ日間ニ及ベリ
 一 四月二十三日 國頭村地方ヘノ轉進 命令ヲ受ケテ先彈藥ト食糧ノ缺
 乏ノ爲メ集結轉進ハ不可能トナリ 中隊ハ解隊状態
 一 上夫人轉進セリ
 一 中隊ハ解隊状態トナリ 分隊單位感ハニケ分隊位ノ人数
 一 國頭村内若クハ其附近ニ宿營シ夫々遊撃戦ヲ行ヘリ
 一 四月二十四日
 一 八月十日書

以上

喜納原並ニ眞部山附近中隊配備要圖
 (自三月二十三日 至四月十六日)



沖繩作戰ニ於ケル

独立混成第四旅團第二歩兵隊
第三大隊第五中隊

戰鬥經過ノ概要

昭和二十一年三月二十五日
第三軍陸務整理部

三宅中尉 署名

2952

國頭支隊 第五中隊

一 一般狀況

四月一日嘉手納正面ニ敵ニ三師上陸シテ四月十六日頃許由LCI近接揚陸作業ヲ開始セリ敵機械化部隊モ北上セリ四月七日敵送船團名護灣ニ侵入掩護砲撃下ニ上陸ヲ開始續キ屋部安知正面ニ上陸兵力約一師(米海兵第六師團)名護附近ニ上陸セル敵ハ同地ヲ據点トシ主要幹線道路ニ沿フ地区ヲ偵察伊佐川初地地区ニ進駐四月九日ニ至リ本部半島頭部ヲ完全ニ遮断シ山地方向ニ對シテ搜索ヲ開始シ四月十日伊豆味附近三提ニ敵一部ハ進出セリ敵ハ本部方面ニ主攻撃ヲ開始セリ

一 一般戰鬥概況

自四月一日
至四月十六日

- 1. 三月二十五日甲号戰備下令ト共一別紙要圖ノ如ク配備完了
- 2. 四月二日橋梁爆破完了
- 3. 四月十日敵一部ハ名護ノ屋部方面ヨリ伊豆味方面ニ向テ攻撃ヲ行ヒ三提ニ於テ一部戰鬥開始ス敵若干ノ損害ヲ与ヘタルモ四名ノ戦死一名ノ負傷ヲ出ス

4. 四月十一日伊豆方面ニ進攻セル敵ハ第一小隊陣地ニ向ヒ攻撃ヲ續行
 八重岳正面ニ向ヒトス一部安知方面ヨリ上陸セル敵ハ同附近ニ砲兵陣地
 ヲ構築シ砲撃ヲ掩護下ニ真部山主陣地ニ向テ攻撃シ砲撃ヲ益ニ
 熾烈ヲ極ム

5. 四月十日安知校ノ焼打ニ成功ス敵ハ八重岳正面及安知方面ヨリ攻
 撃セルモ之ヲ激退セリ

6. 中隊予備隊ヲリシ護部隊一部ヲ第三小隊右翼ニ増援セリ

7. 四月十四日第四中隊喜納原方面破ル我ハ中隊ハ健在ニシテ敵ノ進攻
 ヲ阻止シテリ

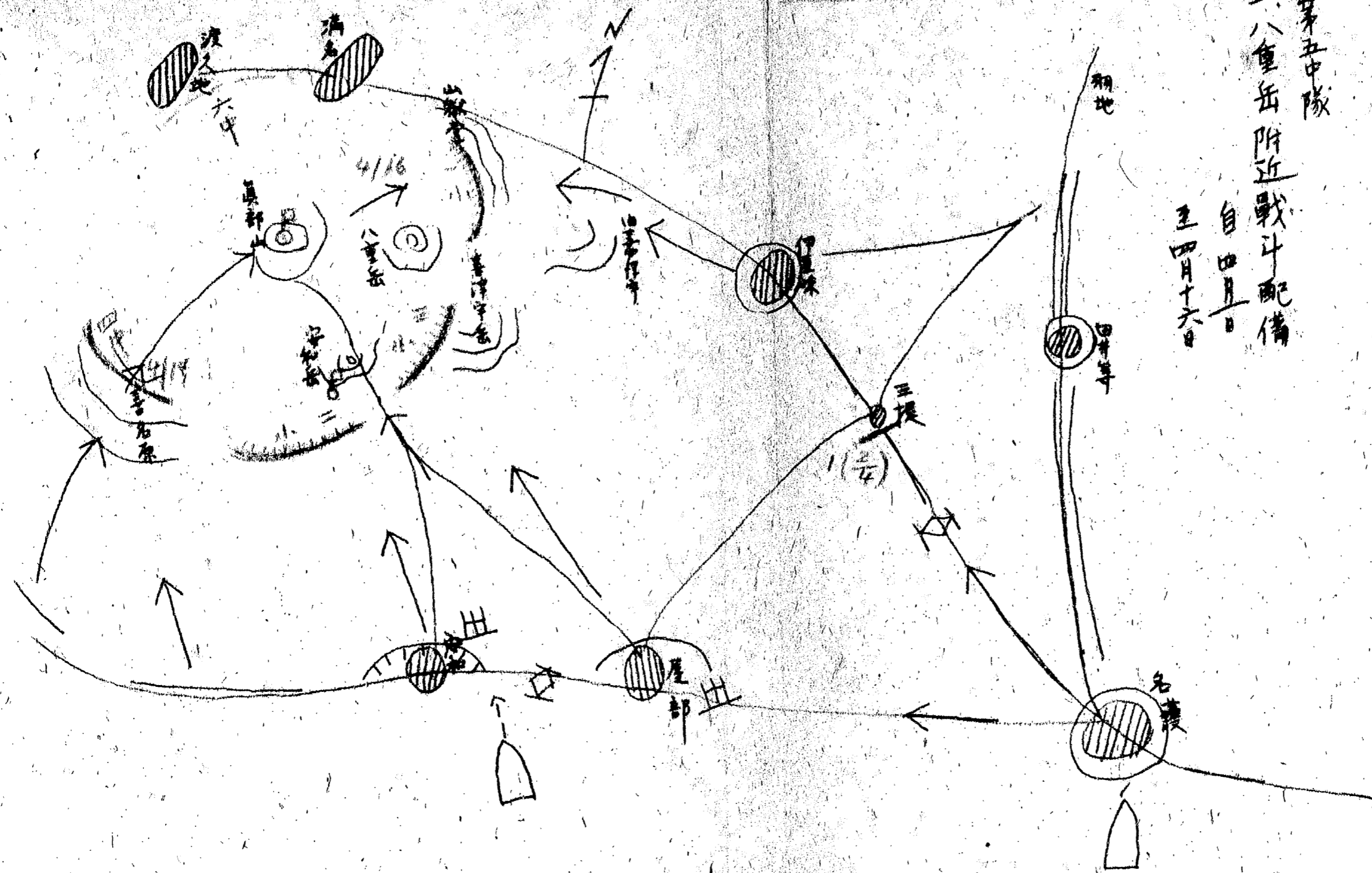
8. 四月十五日第三小隊陣地一部奪取ナル中隊予備隊ヲ編成夜襲ヲ以テ
 之ヲ奪換セリ

9. 四月十六日戦斗益々激烈ナリ午後ニテリ部隊本部大隊本部トノ連
 絡ナラ消息不明ニシテ敵背後ニ迫ル模様ナリ尚敵ハ勝山方面ヨリ總
 攻撃ノ態勢ヲ取レリ夜ニテリ部隊本部ヨリ轉進ノ連絡アリ中隊ハ
 再三時ヲ期シ包围線ヲ突破ス岳方面ニ集結スベク命令ヲ發シ
 行動セリ

戦果 人員殺傷 五〇〇名
 偵察機一機墜
 自動車一車ニ斬
 銃機ニ銃

損害 戦死 数名
 負傷 数名

一 圖 要

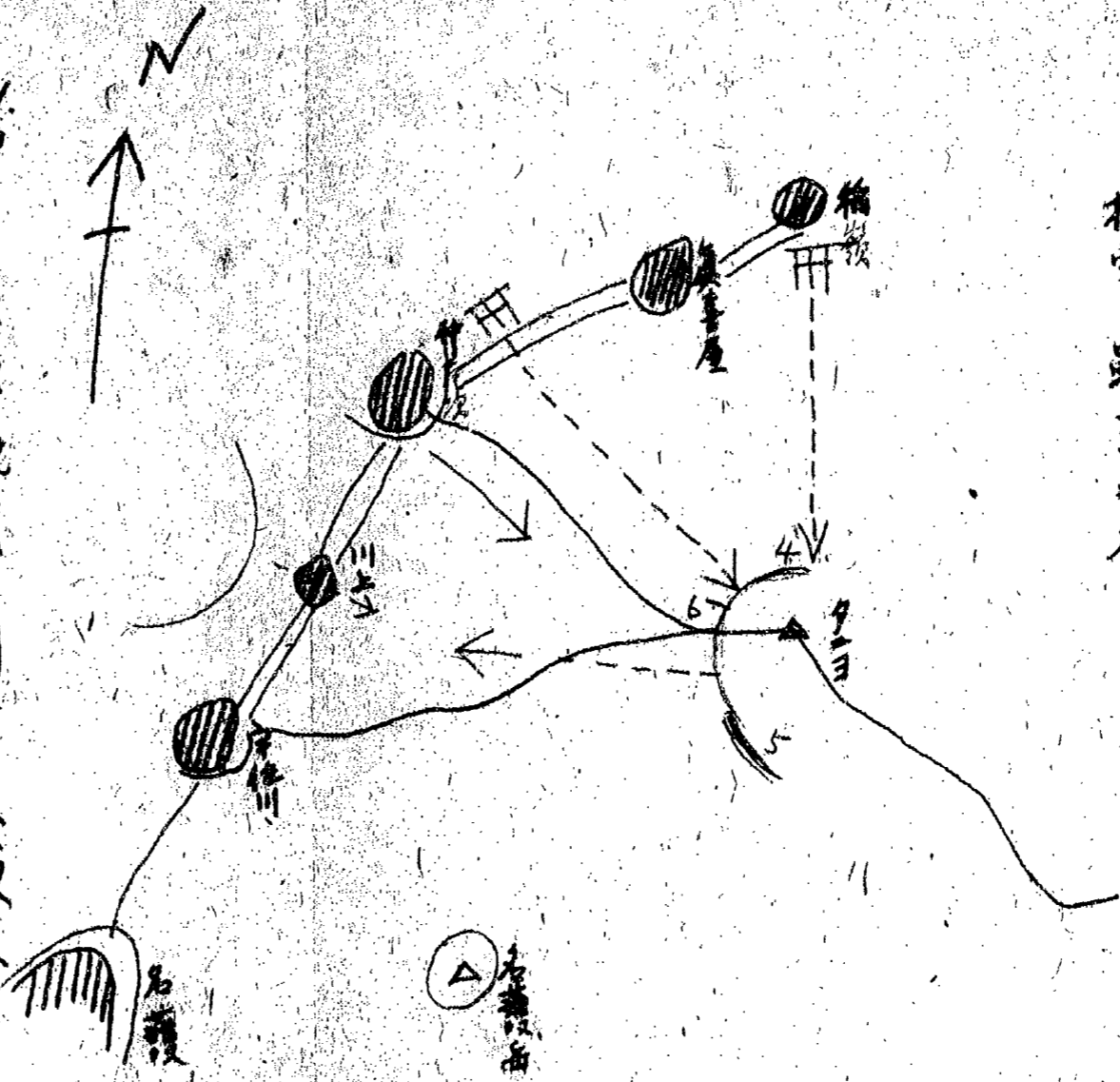


第五中隊
 一八重岳附近戰鬥配備
 自四月一日
 至四月十六日

ニ夕ニヨ岳、戦斗

自四月二十二日
至四月二十四日

戦果 人員殺傷一五名
損害 戦死二名



1. 四月二十日中隊ハ概敵ハ包圍陣ヲ突破焦結ヲ了セルモ五十六名ハ未着戦死セルモ如シ

2. 敵ハ夕ニヨ岳ニ轉進セルヲ察知セルモノ、如ク二十日頃ヨリ砲撃ヲ加ヘ来ル

3. 四月二十日十四時頃ヨリ敵ハ攻勢ヲシ来ル砲撃ヲ益ニ激烈ナリ四月二十日夜間轉進命令降ル一部部隊ハ戦意ヲ失テ感アリ尚重傷者戦斗不能者一五名任テ自治班トシテ大宜味源河方面ニ轉出セルム

4. 一應隊ハ大宜味方面ニ至リ更ニ東村方面ニ在リテ第二次遊撃戦斗ヲ計畫ス各隊トモ糧米ニ困難セルモノ、如シ

5. 沖繩出身兵糧米集積ヲ命ジ第一小队三宅隊ハ國頭村若川ニ轉進シ第二次遊撃戦斗ヲ画シ謝花軍曹ノ指揮セル部隊本部機關銃分隊一分隊及第二天隊残余ノ兵若下軍曹以下五名ヲ加ヘ五月十七日三宅隊ヲ編成シ辺土名一箇大隊鏡水一中隊在リ辺土名本部敵狀ノ奥ニ一箇大隊辺土名一箇大隊鏡水一中隊在リ辺土名本部

ヲ有スルモノ、如シ

主トシテ附近ノ敵情ヲ偵察シ攻塞ヲ画ス

六月五日八重岳方面ニ轉進東部半島ニ在リテ遊撃

戰ヲ展開ス可シト命ヲ受ク中隊ハ(三宅隊ヲ除ク)平良

方面ヲ出発名護岳ニ至リ名護物地道ヲ突破八重岳

ニ潜伏安知名護今帰仁村方面ノ敵陣地ニ対シ切込ヲ

敢行ス

三國頭村鏡水遊撃戰斗

三宅隊MG一分隊輕機一銃(三〇名)

六月十八日午前二時鏡水敵陣地ヲ攻撃ス敵人員約百名敵陣

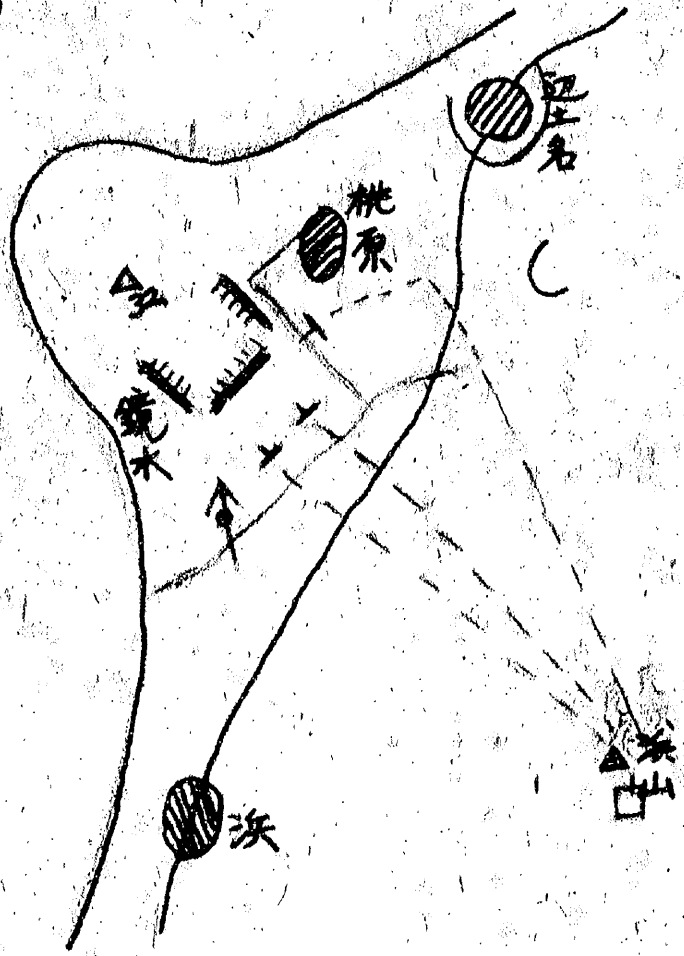
地前ニ米突附近ニ近迫セルヤ敵ハ發電設備ヲ發火セリ意

如ク攻撃シ得ガレ左記ノ戰果ヲ得タリ

戰果 兵員殺傷 約百

暮舎破壊 三

N
↑



損害 戦死 三名
負傷 一名

2958

四 六月中旬一般ノ状況

1. 軍主力島尻方面ノ情報ヲ知ル事ヲ得ズ中頭方面
轉出セル模様十九七一一部悲觀談アリ情報不明ナリ

2. 國頭方面敵情

奥兵力一大隊

迎撃力一大隊

鏡水々々一大隊

大宜味々々一大隊

五 國頭村与那附近遊撃戦斗

自六月三〇日
至七月三〇日

1. 主トシテ伏撃ヲ敢行シ左記戦果ヲ得ナク

自動車 三輛破壊

装甲自動車 一輛破壊

兵員殺傷 三〇名

損害 ナシ

1. 常國頭方面各地ニ斥候ヲ出シ敵情ヲ偵察シ決戦トシテ決セヨス

九月十五日 勅令ヨリ八月十五日終戦羽地附近ニ集結ヲ令

セリ我軍ハ半信半疑ナリ

九月二十六日 愈々決セザルヲ得ズ編成ヲ中止解隊ス

昭和三十年九月九日記ス

(完)

沖繩作戰ニ於ケル
独混四四旅團第二歩兵隊第六中隊
戦闘經過ノ概要

昭和二十二年三月二十五日
第三軍残務整理部

2961

國頭支隊

第六中隊

一 一般狀況

四月一日嘉手納正面ニ敵上陸ノ模様ナリ兵力不詳ナル艦船狀況

ヨリ判断シテ敵多ク四ヶ師團以上ナラム

四月六日夜ヨリ大隊陣地内ニ砲彈落下シ始ム

四月七日名護附近ニ米海兵第六師團上陸ス爾後本部半島ハ

國頭地区ヨリ遮断セラル

四月十日ニ至リ敵ノ一部ハ伊豆味附近ニ陣地占領宮里附近ノ陣

地ト呼應シ猛烈ナル砲撃ヲ開始ス

即チ敵ハ本部半島上國頭地区ヲ遮断シ其ノ主攻撃ヲ本部半

島ニ始ムセルモノ如シ

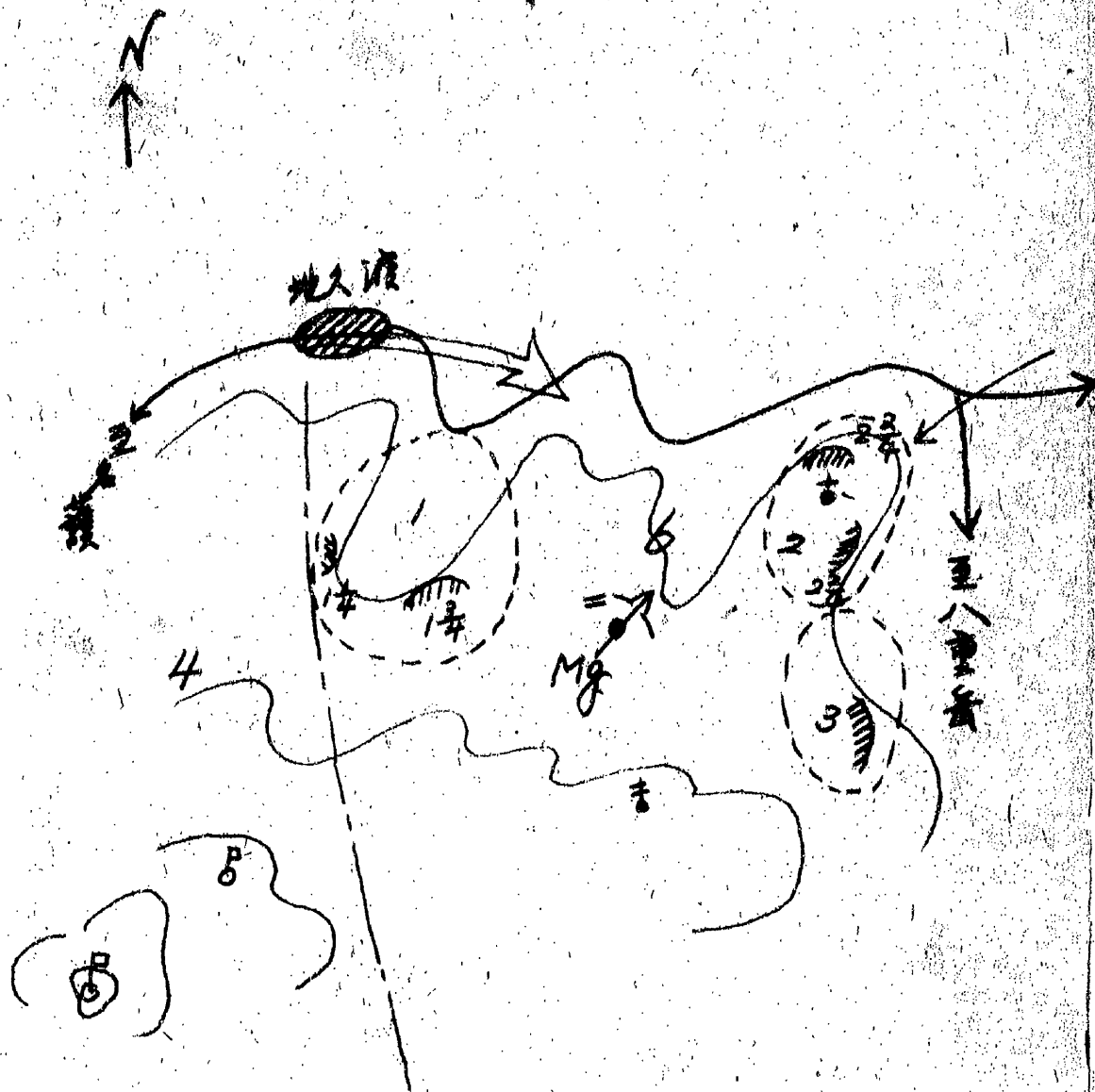
十五日ヨリ十七日真部山陥落ニ至ル間戦斗最モ激烈ニシテ苦戦

ヲ重ネタリ

二 一般戦況

三月十五。甲号攻撃命令中隊配備要圖如シ

至伊豆味



2963

2. 四月二日道路橋梁爆破概成

3. 四月十日名護附近ニ上陸セル敵ノ一部ハ伊豆味ニ進入シ

地上戦斗開始セル本日以降連夜敵組ノ斬込班ヲ編成
シ伊豆味渡又地ノ敵ニ対シ夜間斬込ヲ実施シ相當ノ
戦果ヲ擧ゲ得タリ

4. 徳重小隊苦戦(四月十三日)第一小隊ヲLgニ應接

藤岡伍長壯烈ニ戦死ヲ遂ガ

5. 四月十五日徳重小隊敵ト混戦状態ニ陥ル

大隊長ヲ陣地撤收ノ命アリタルモ意見ヲ具申シ陣

地確保ノ方針トシ第二Mgノ應接ヲ求メ確保又敵死傷約三〇

6. 四月十五日夜米敵砲臺熾烈ヲ極ム十六日未明指揮

班附近ニ火火起ル指揮班全員ヲ以テ消火ニ努ム

中隊長負傷シ夕刻入院 島井中尉中隊ノ指揮ヲトシ

7. 真部山一帯ニ各陣地間ノ連絡絶エ七日夜大隊ハ各中隊

毎ニ回頭地ニ轉進ノ命下ル中隊ハ各小隊毎ニ夜間ノ利

用ニ當テ(転進開始迄)中隊ノ掌握困難トナル

8. 四月二十日朝、三岳ニ於テ各小隊ヲ区署シ遊撃戦ヲ準備シ中隊指揮班ヲ大ニツクニ置キ遊撃據点トス
 三夕三岳戦斗
 自四月二十日
 至四月二十四日

2965

戦果 約三名

戦死 二名

負傷 三名

1. 敵ハ夕三岳集結ヲ察知セルモノ、如ク二十三日朝未迄重砲彈落下シ始ム

2. 各小隊ハ連結困難ナリ 山下重砲隊ヲ小隊ヲ纏メ夕三岳北側ニ配備セルニ敵攻撃ノ甚キトナリ激戦ヲ繰ク

3. 四月二十四日夜間轉進命令下ル
 中隊ノ前進目標ハ新川部落ナリ 中隊長ハ一應夕三岳ニ引返シ
 聯隊本部ト行動ヲ共ニ有銘部落ニシ

4. 平五日朝有敵部若ニ於テ敵ノ攻撃ヲ受リ爾後中隊ハ新
川ニ向テ遊撃ヲ戦斗ヲ繰テリ

四. 六月下旬一般状況

1. 軍主力ハ三ノ里總斬込ヲ敢行セリト一部情報元ニ確
報ヲ得タ

悲觀說有力ナリ各中隊本部ノ連結意ノ如クナラズ
加之食糧彈藥欠乏ニ戰意低下ノ徴アリ

2. 宇土部隊ノ配備左ノ通り

部隊本部 廣佐次

第四中隊 辺土名山

第五中隊 本部

第六中隊 新川

第一大隊長佐藤少佐生死不明ノ為メ佐藤大隊
尉大隊長代理ヲ命ゼリ

3. 敵兵力配備概要左ノ如シ

奥

4. 概江鏡大辺
畧土地里土名
以上ノ大一大一大
状態ヲ終戰ニ至ル

沖繩作戰ニ於ケル
第七〇七一部隊第二機閃銃中隊
戦闘經過概要

昭和二十二年三月二十五日
第三軍政務整理部

第三機関銃中隊戰鬥概要

昭和三年六月九日第三小隊長上田少尉記ス

A. 眞部山ノ戰鬥

自四月十日頃
至四月十七日

一 四月十日ノ狀況

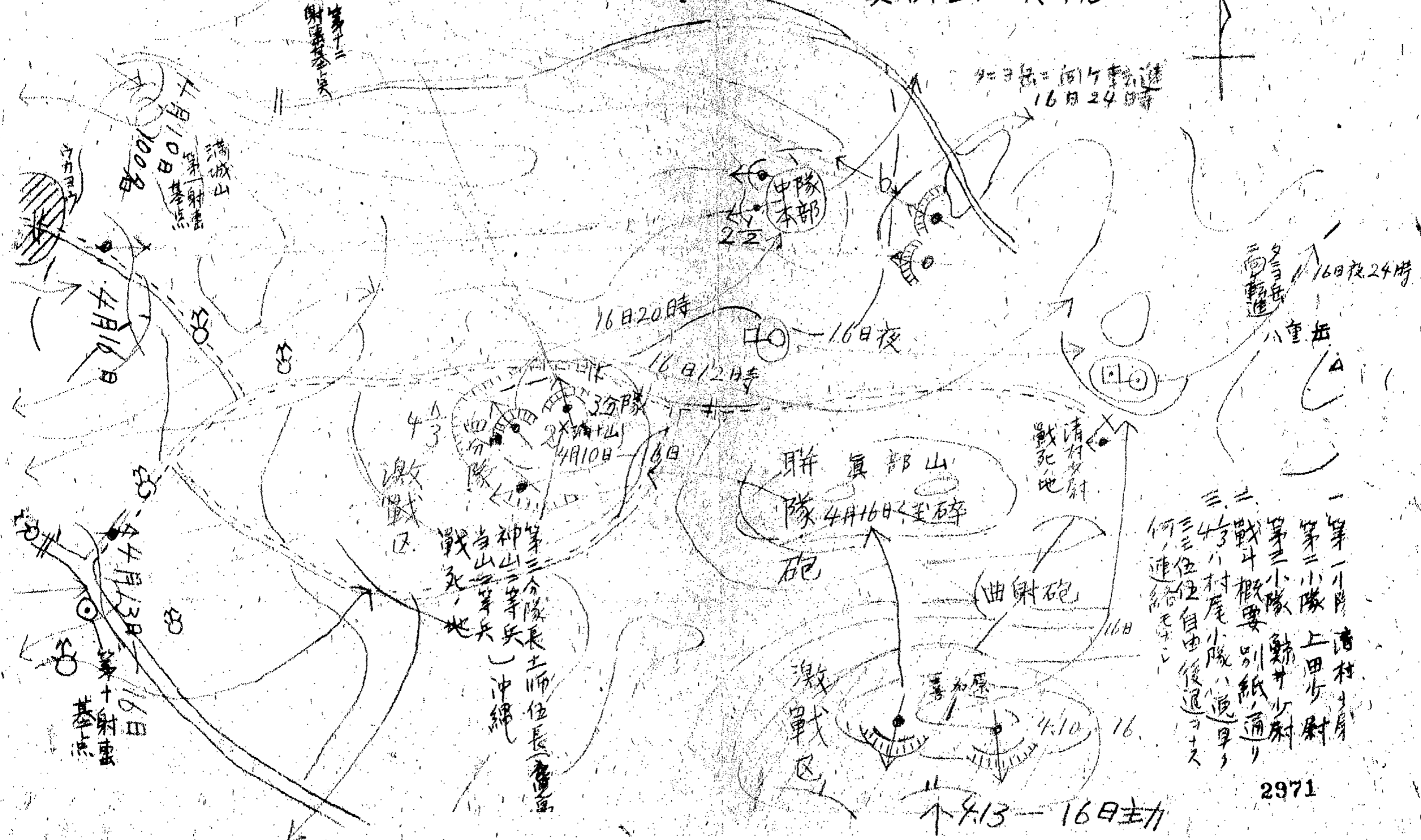
四月九日頃名護灣ニ上陸セル師ノ敵ハ本部半島頭部ヲ遮断シ
概テ海岸線ニ沿ヒ一部ハ縱断シ大包围ヲ爲シ諸所ニ小戰ヲ惹起ス
第三小隊陣地前方一五〇。満石川ノ堤坊ニ約三〇〇ノ敵影ヲ見ル
却下小隊齒ヲシテ爲シ射撃開始ヲ迫リシモ部隊ノ作戰方針ニ
基キ如何ト爲シ難ク冷靜ニ命ヲ待ツ可クオサエナリ。此間艦
砲射撃爆裏ハ向断ヲ續行セル満石山附近ニ二平方米ニツキ
一飛位ノ割ナリキ本小隊ノ陣地前ノ敵狀ヲ判断スニ或ハ陽動
作戰ナリヤトモ思ヒタリ。

二 四月十日以後數日ノ概要

敵偵察相変ズ火熾烈ヲ極ム九時頃第三小隊ノ正面前四〇。
米ノ基莫ニ敵部隊出現重機三迫撃砲三ヲ有シ陣地占領
スルノ如ク若ニ於テ三分隊ニ右斜面ノエラミヲキセ四分隊ヲシテ

當らふ。同分隊ノ本陣地ヨリ地形上射撃不可能ニシキ予備
陣地ニ就カシム可ク移動セシムガ敵カヨリスル好目標トシ箇所下リ
不利ノ慮ヲ生ゼシヲ以テ約二十米前進シ三尺位殺落ノ小松林
中ニ銃ヲ据ヘ云(註之ハ最良方法アリ射撃開始後敵ノ
集中射撃ハ予備陣地ニ向テ見事ニ命中シ敵彈ハ一尺位
上方ヲカスメ飛来シテヨリ時々耳元ヲカスメ飛来セリ)
伝令ヲ收遣ス報告ニヨリ「一人モ居ラセシ」小隊長ヲ失ヒ各
分隊ハ自由行動ヲ取ツテチチノガ念ノ爲メ各分隊ノ陣地
ヲ偵察セシメテ全部退却後ノ板柵ヲアツタ自兵力ヲ有シテ糧
彈戰ヲ棄退シヤリ日没頃完全ニ包圍セシ強立無後ニ陥ツタ
事ヲ中隊ニ報告ガカ應援無用
本日ノ戦トテトリ難ク陣地ヲ死守スルニ依テ小隊長ト共ニ戦死
スヘク全部ノ生命ハ小隊長ガ預カワト言ワタ喜ビ勇シテ言
下ニ想ヅテラレタノハ感セズニ居ラシカワタカ不思議ニ敵ハ攻襲
シテ来テ不詳隊砲ノ陣地ハ馬乗りヲ喰ツ山上下ハ既ニ敵影
ヲ見ル仕方ナク再ハ小隊ヲ棄不結死守ノ前言ヲ取り消シ

第二機関銃中隊 20.4.10 戰鬥配置要圖
 本部町饅十山 (命名セル) 眞部山 = 於ケル



一 第一小隊 清村
 二 第二小隊 上田少尉
 三 第三小隊 齋藤少尉
 四 戰鬥概要別紙通り
 五 4分隊 村尾小隊 16日早
 六 三位 自由後退
 七 何連絡セル

第三分隊長 土師伍長 (奮死)
 神山一等兵
 神山一等兵
 激戰区

2971

一先ズ中隊本部、位置ニ後退シ爾後、作戦ヲ樹直ス可ク重
圍ヲ突破シ中隊本部、位置ニ至リ一銃ヲ以テ満城山ノ敵機
銃ヲ攻撃直ニ沈黙セシム斯クシテ二十時頃今夜三四時ヲ期シ重
圍ヲ脱出シタリヨ岳ニ無進ス可ク聯隊命令ニ接ス。

第一小隊

九時頃ヲ殊ニ激戦重圍ニ陥リ一銃破壊セテ手榴弾戦ヲ重
圍ヲ突破聯隊本部、位置ニ後退シ掩護射撃中小隊長艦砲
ニ近彈ヲ受テ即死ノ壯烈ナル戦死ヲ遂ゲ此小隊ハ四離滅裂
トナリ中隊本部ニ帰属セシ者アリ 然ラザルモノアリ。

第三小隊

第三小隊ノ接獲射撃ニ任テ満城山上ノ敵重機ヲ射撃ス
戦カ方ノ損害

人員 戦死傷者 五名

重機破壊 一

敵ニ与ヘシ損害

人員 五名

兵器破壊 重機 一

迫砲 二

九時中隊本部ニ報告スルト同時ニ射撃開始ヲ命ズ自ラ四分隊ノ
銃ヲ指揮ス次々々々一種レ行ク敵狀真ニ愉快極ニ戦斗ヲテ
敵ニ入レ損害一少隊ニ小隊正面ニテ確死數ハ判然セザリシモ
二〇〇下ラズ敵ヲ重傷退シ完全ニ其ノ意圖ヲ挫折セシム
存テ左面正面第一小隊正面ニ於テモ射撃開始セルモ、如ク銃
聲熾烈トナリ

右正面(第六中隊德重小隊担当)ノ銃聲熾烈トナレリ危險トナリ
ニ依リ野井小隊一白木分隊増援ニ行ク
上田小隊正面ニ於テ重銃機ニ銃迫重砲三門沈黙挫折セシム
ニ快哉アラシク戦斗ニ於テ我が方ノ損害皆無ナリシハ陣地
ニ選定置シキク得シ爲ナリシ眞ニ幸チアタリテ準備陣地ハ
日奈久苦茶ニ破壊サレタリ

三四月十三、十四、十五、十六日

第一小隊 斯ル戦斗ヲ繰返スコト四日五日ノ十六日敵ハ總攻撃
ヲ開始セシム如ク艦砲射撃爆雷益々盛トシテ正面左右両翼ノ
戦ト耐トシ上田小隊正面ニ於テ其都度退シ一歩モ近付ケス

十二時頃聯隊砲、陣地艦砲、爲メ完全ニ破壊サル是レヨリ前九時頃

上自小隊、第三分隊陣地ニカキテ、爆薬(直薬)ヲ受ケ戦死三名

重軽傷者ヲ出セル迄スモモ残念ナリトテ、昨日ノ状況ヨリテ本日ハ

第一分隊ハ危険ナル如キ予感スルニ付テ陣地内ニ這入ラサル如ク注意セシ

モ(何自分ノ這ワテ陣地ヲ戦死スルヲ本望メテス)剛氣ノ分隊長ハ斯ク言

フヤ小隊長、注意ヲ肯セズ、這ワテテカキテヤル(銃ハ埋没破壊ス

同時相強ク至五度正面ニ敵出現セルモ多ク、損害ヲ与ヘテ速退ス

小隊後方聯隊砲、陣地ヲ超エ曳光彈飛来ス依ッテ村尾少隊ニ文書ヲ

正面ハ引込ケテ後方聯隊砲、陣地が危シ小銃分隊ヲ手當ラシテケレ

B. 夕三岳ノ戦斗

一 一般ノ状況

本部半島ヲ脱出シタル各部隊ハ漸ク集結ヲ了ルヤ敵ノ察知スル

処トシテ艦砲射撃地上部隊ノ偵察引續キ攻撃ヤリ

四月三日頃配備ニ付テ可ク、各々陣地ヲ視察ス

四月四日地形複雑ニ大密林地帯ヲ配備困難ヲ極ム中隊長、

命ニ依リ第五中隊ニ配属セル依ッテ要圍、如ク配備ニ就ク残余ノ小

陸ハ戦斗シ全ヲス

二 戦斗

四月三日 九時敵小部隊陣地前数十米ノ箇所ニ両方ノ岩間ヨリ
上リ来ヒテヲ射撃シ之ヲ全滅セシム午後晝ニ砲轟熾烈トナル
爾後未冠テシ待峠ノ儘夜ニ入り同三時四時夕言岳ヲ脱出ス可ク
聯隊命令ニ接ス

三 中隊トノ関係

直ニ中隊ニ合ス可ク五名ノ連絡兵ヲ出セシモ指揮班ノ位置ニハ一兵
モ居ラス宜ク引揚ガリ想フニ此ノ時既ニ中隊ハ解散状態トナリシヤシ
依テテ部隊ト行動ヲ共テス可ク決ス

四 是レヨリ四日ノ日子ヲ費シテ内福地ニ向ケ強行軍ヲナス

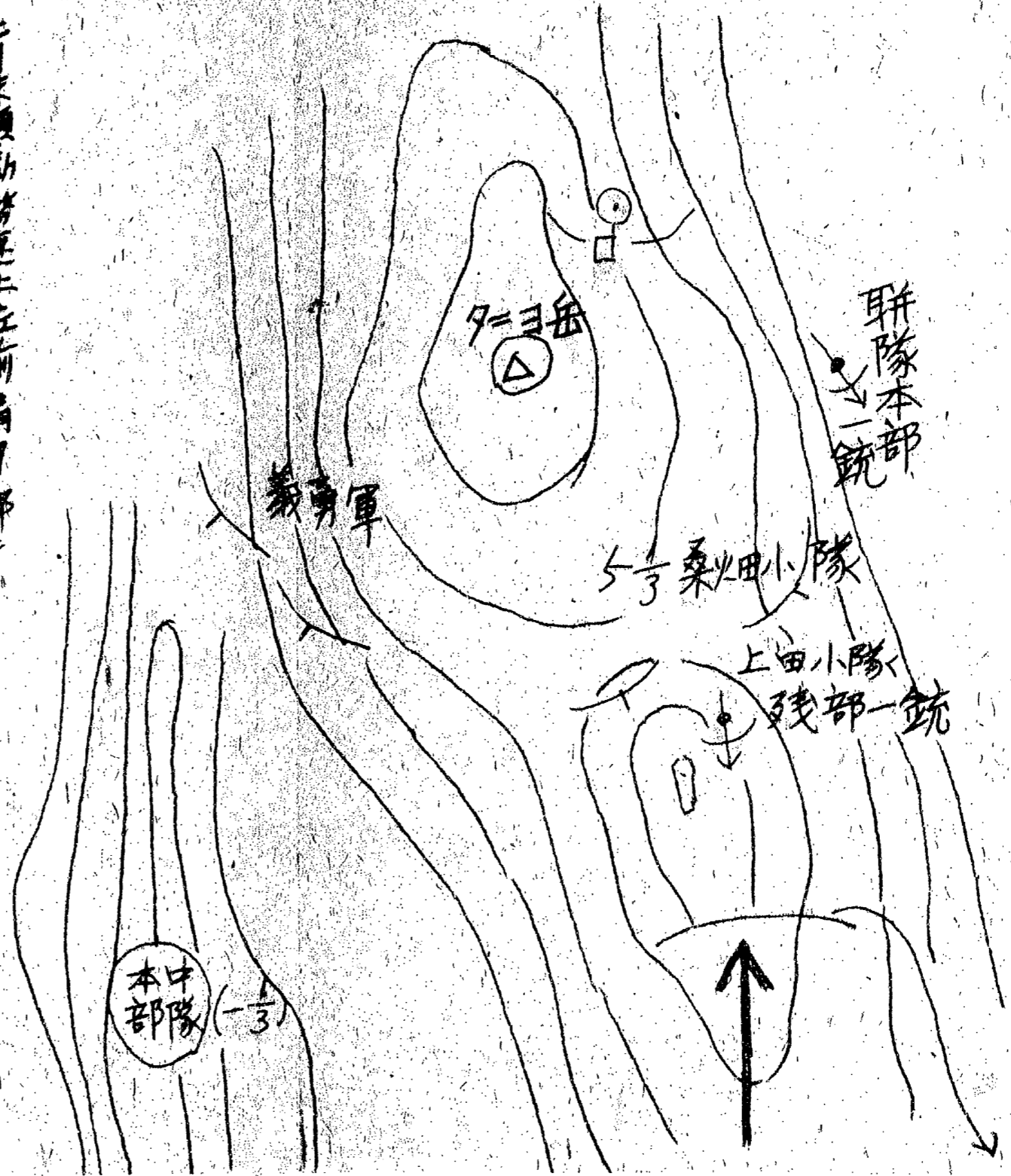
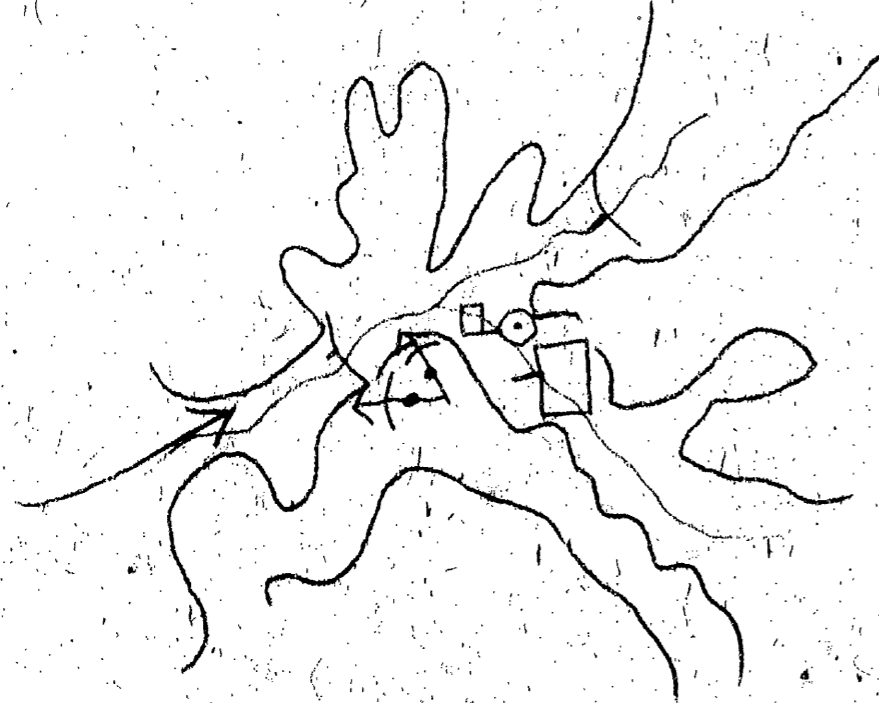
五 中隊ハ解散トナル

六 第三小隊餘井見習士官ハ部隊ノ連絡ニ任セシモノ、如シ復七月
末頃勤務遂上左前肩甲部ニ拳銃彈ヲ発テ受テ復員シ
目下何レカノ病院ニ入院ニテ治スヤスル

4月17日(?) 9=3岳一於4r 戰鬥要圖

4月29日內福地=於4r 戰鬥要圖

七本嶺勢勢連上在斬首中



2976

C. 内福地ニ於ケル戦斗

一 一般ノ状況

四月二十八日此ノ地ニ到着スルヤ否ヤ偵察機ノ偵察アリ續イテ
機銃掃射地上部隊ノ攻果ヲ受ケ配備ニ暇モナシ

二 戦斗

應急処置トシテ機銃ヲ配備防戦ス敵ニ相当ノ損害ヲ与ヘシ

モ、如シ小隊ニ損害ナシ

他ノ部隊ニモ二十名位ノ損害アリ。

三、戦斗ヨリ四離散裂トナリ直ニ小隊ヲ集結シ東ノ村落

ニ逃リ付キ五月三日、本土ヨリノ大攻勢ヲ待テ再ニ集結ス可ク

ニ乃至三人組トナリ本島出身ヲ奪ヒ自村ニ歸リ隠トナス可ク小隊

ヲ解散ス。一行八名ナリシナリ。

四、爾余ノ中隊ノ動ニ就テハ一切不明トモ本島脱出或ハ敵

ト遭遇シ戦死セル者等計

中隊長以下九名ナリ

行方不明 六名

RIA
21

2978